

資金パートナーを迎える



1985年上智大卒。カルチュア・コンビニエンス・クラブの最執行責任者(CEO)などを経て、2010年6月イディアル社長(15年11月から会長)。2014年6月から東証マザーズ上場のP&S最高経営責任者(CEO)。

パス最高経営責任者 柴田 励司氏

「柴田さん、投資会社のお話断ろうと思っ
ます」。旧知のベンチャ
ー企業の社長の言葉だ。
とあるビジネスコンテ
トで彼が提案した新規事
業案に某投資会社が関心
を示し、「一緒にその事業
を立ち上げることになっ
たと聞いていた。その後
およそ1年にわたって検
討してきたが、最後の最
後で彼が「止めること
にした」という。

事業の企画、実行は彼
の会社が担当し、新会社
立ち上げのために必要な
資金を側面支援をその投
資会社が行うということ
で進んできた話だった
が、スタートが見えたど
ころで、彼にとって「ト
リップ・サプライズ」が
あり、止めることにした
という。

「サプライズ」は社長
人事だ。投資会社から突

異なる期待と思惑 忘れず

だ。
事業は人なり。新事業
を立ち上げるような局面
では全社一丸になること
と。それが事業立ち上げ
のエンジンとなる。そこ
に同志ではないが影響力
のある人がいると大きな
プレーキ材料となる。お
そらく、その社長候補の
人はやる気満々であるこ
とだろう。しかし彼女の
志と彼の志は同じではな
い。彼女は自分が立ち上
げたやり方を推進したい
だろう。この人事ではう
まくいくわけがない。彼
の判断に賛成と答えた
魅力的な事業には多分
面から声がかかる。ただ
し、それぞれ異なる期
待や思惑があることを忘
れてはいけない。誰と一
緒に進めていくのか、よ
く見極める必要がある。
資金面でのパートナーを
迎える場合には覚悟が必
要だ。

を主目的とする担当者
が、短期的なりターンを
得るための行動をとって
くる。この担当者は事業
そのものには関心がない
ことも少なくない。その
担当者のおかげで、新規
事業で市場を開拓するど
ころか、身内対策で身動
きがとれなくなることも
あり得る。

新規事業は「わからな
いこと」を手探りに進め
る中で道筋が見えてく
るとばかりだろう。客観的
に見ると行き当たりばっ
たりに映るかもしれない
が、このトライ&エラー
があるからこそ、誰もや
ったことがない事業が形
作られる。光明が見える
までは苦しい。その時期
には事業側の気持ちを萎え
させるような動きをする
関係者が出ることも想定
しておいた方がいい。そ
の関係者に悪意はない。
利害が異なるだけだ。

ベンチャー経営者にと
って資金は魅力だ。「あ
なたに投資します」。投
資の異なる関係者が登場
し文句だ。しかし、投資
は寄付ではない。投資会
社はその事業目的上、当
然なりターンを求める。そ
うなると、そのなりター
ンはない。